

ウスバカマキリ

Mantis religiosa (Linnaeus)

カマキリ目カマキリ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

本種の生息する海岸草地や河川敷は、土木工事の影響を受けやすく、生息地が狭小化している。

形態

体長は50～70mmでメスのほうが大きい。体色は淡緑色であるが、淡褐色の個体も見られる。前脚の基部の内側に、黒色の楕円形の斑紋があるのが特徴である。

国内分布

北海道南部から南西諸島まで広く分布するが、生息地は点在していて、個体数は少ない。

県内分布

加賀市、小松市、能美市、珠洲市の海岸草地および手取川河川敷に生息している。過去には白山市の記録がある。

生態

成虫は年に1回発生する。幼虫は6月から見られ、成虫は8月から11月にかけて出現する。幼成虫とも草地の地表に近い所に生息し、小型の昆虫類を捕食する。卵のうはやや長めの枕型で、石や木片などに産付される。成虫は夜間、灯火によく飛来する。

生息地の条件

生息地は海浜植物帯や海岸近くの草地、大きな河川敷の草地に限られるようである。本種は、丈の短い草本類がやや疎に生えている明るくて開けた環境を好む。

生存の危機

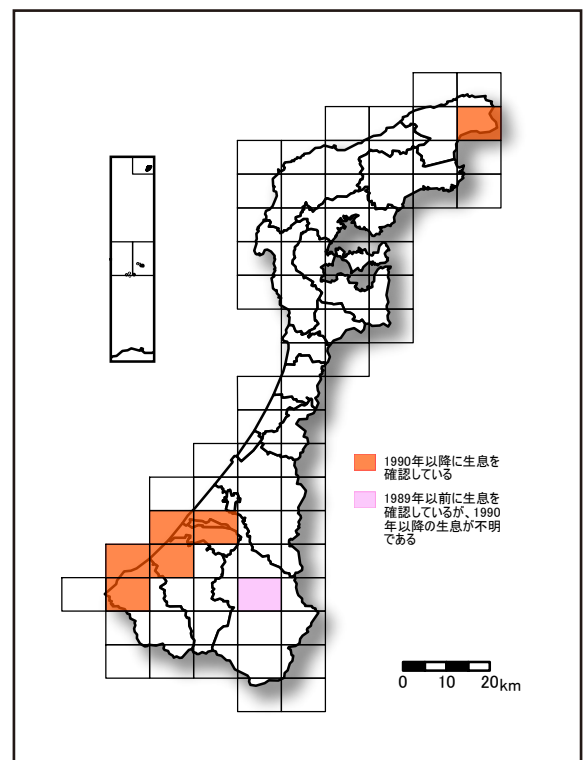
海岸部では、護岸工事や植林、土地造成の影響を受け、海岸草地が狭小化して生息地が悪化、消滅している所が多い。手取川河川敷では、土木工事による生息地の破壊が進んでいる。(A, B)

参考文献

富沢 章 2007. 石川県におけるウスバカマキリとヒロバネカンタンの記録. とっくりばち, (75) : 40-41.



写真提供者: 富沢章



県内の分布